

# Npop'n

えぬぽっぶん

VOL.151

◆X(旧Twitter) ◆Instagram ◆HP



NPO POP NEWS=(略して)『Npop'n』

新宿NPO協働推進センターから、社会貢献活動に関連したPOPなNEWS(話題)をお伝えします！

## 【交流イベント③『NPO×企業×社会変革』 一杯のコーヒーから社会のよりよい変え方を考えよう！】

いつも美味しく飲んでいるコーヒーは、生産地の就労や公正な取引の問題、消費地の環境やゴミの問題などと深く関わっています。今回の交流イベントでは、サステナブルコーヒーの取り組みやコーヒー残渣の活用をご紹介いただき、身近な暮らしから私たちは意識と行動をどのように変えたらいいかを考えました。

### 【基調講演】

José. 川島 良彰 氏（株式会社ミカフェート 代表取締役

一般社団法人日本サステナブルコーヒー協会 理事長）

### 【登壇団体/登壇者】

奥富 康太 氏（神保町コーヒープロジェクト/明治大学 島田 剛ゼミ）

石垣 哲治 氏（株式会社ソーイ 代表取締役）

### ◆ファシリテーター

嶺村 富士雄（一般社団法人NPO協働機構）

### ◎基調講演：José. 川島 良彰（かわしま よしあき）氏

#### 「私はサステナブルコーヒーで世界を変える」

2001年、コーヒー価格はマネーゲームの対象になったせいで大暴落し、生産者は深刻な影響を受けました。コーヒーの生産・消費の持続可能性（サステナビリティ）の重要性を知ってもらいたくて「日本サステナブルコーヒー協会」を設立しました。

コーヒーは、石油に次ぐ産業と言われ、品種は2種類あり、途上国で生産し、先進国で消費され、日陰で育ちます。栽培環境が麻薬と似ている点が特徴です。

#### 1. 生産国・生産者対象の社会課題解決に向けての取り組み

##### ①タイ北部ゴールデンライアングルでのアヘン栽培からコーヒーへの転換

タイ、ラオス、ミャンマーの国境地帯の貧しい地域で、焼畑農業で荒廃した森林跡でアヘン栽培が行われていました。これに対して、タイ王室の関係財団が、森林復活と日陰でも育つコーヒー栽培、女性の収入確保としての織物の振興などのプロジェクトに取り組んでいました。2014年に協力依頼を受け、コーヒー栽培の指導を行うようになり、その結果、現在、森林は復活し、集落は豊かになっています。アヘンからも脱却し、タイでも有名なコーヒービレッジになり、観光スポットになっています。

ラオス国境の少数民族対象のコーヒー栽培、ミャンマー政府からのアヘン地域のコーヒー転換プロジェクトにも協力しています。

##### ②ルワンダのコーヒーサプライチェーン強化プロジェクト

大虐殺事件後の平和構築プロジェクトとして取り組んでいます。この事件の背景にコーヒー価格の暴落による社会不安があり、JICAからの依頼で村々を回り、パイロットファームを設け指導しています。品質・収量とも上がっています。

##### ③コロンビアのフェダール農園におけるコーヒー栽培指導

知的障害の子を持つ親たちが作った財団で、学校の他、職業訓練の1つでコーヒー栽培をしており、ボランティアで技術指導をしています。現地の人々は指導内容をきちんと守り、品質が良くなり、日本で販売するようになっています。



川嶋氏



川嶋氏の著書

## 2.生産者と日本の若い世代をつなげる取組み

明治大学神保町SDGsコーヒープロジェクトの他、ガールスカウトコーヒー、東洋英和女学院の大学と高校のコーヒープロジェクトなどが行われています。

ガールスカウトはコロンビアの女性生産者のコーヒーを販売し、売上げから水道がないコーヒー農家がフィルター付き水タンクを設けることに支援しています。東洋英和女学院では、大学はフェダール農園のコーヒーを販売し、売上げから寄付、高校はパナマとエルサルバドルのコーヒーの販売と、売上げからパナマのコーヒー地帯の先住民族の子供たちの教育に取り組んでいる財団に寄付をしています。

## 3. 障害者雇用の取組みとバリスタチャンピオンシップ

特別支援学校の生徒たちを指導したところ、お湯の温度やコーヒーの量を指示通りに守り、上手にコーヒーをいれることができるようになりました。いくつかの企業が、彼らを雇用し、サステナブルコーヒーを用いて、抽出や接客まで任すカフェを作っています。また、障害者によるバリスタ・チャンピオンシップを2021年から行っています。会場や参加者の宿泊、移動などにいろんな企業の協力をいただき、運営には学生がボランティアで当たってくれています。

## 4.サステナブルコーヒーと日本の企業

日本航空バンコク線でアヘン栽培から転換したコーヒーが提供されるなどサステナブルコーヒーを採用する企業が出ています。

### ◎事例報告Ⅰ：奥富 康太（おくとも こうた）氏

明治大学情報コミュニケーション学部の島田剛ゼミが2020年度から開始したもので、学生による街づくりと生産国支援のコーヒープロジェクトです。内容は、①SDGsコーヒーの商品開発と販売。売上は現地の生産者にすべて寄付しています。②神保町の街づくり。主にHPでの情報発信で、神保町で展開している店や企業へのインタビュー、神保町の喫茶店紹介などを行っています。

本プロジェクトの背景には、グローバルな視点とローカルな視点があります。

グローバルなものとして、国と国の経済格差の縮小が進んでいる一方で、富裕層と低所得層の二極化や貧困が継続している地域の問題があります。

ローカルなものとして、大学が所在する神保町の街づくりがあります。神保町は、①日本最大級の古本の街、②コーヒーの文化、純喫茶の文化の厚み、③スポーツ用品店、楽器店などの専門店が多いという特徴があります。純喫茶で生まれる緩やかな交流は人と人とのつながりにつながっています。しかし、喫茶店の文化が衰退することでこれらが希薄化するという課題があります。このため喫茶店、コーヒーという文化に着目した取組みを考えました。

コーヒーは開発途上国にとっても重要な作物なので、神保町という地域の問題と国際問題の双方に取り組めます。今年のコンセプトは、①生産地のリアリティを伝える、②味の違いを認識してもらう、③消費者の好みで選ぶ価値観の提供の3つです。味の違いは生産者の工夫、取組から生まれます。そこから、生産者のリアリティ、例えば生産者の思い、取組、現地の歴史などを踏まえた生産者の置かれた状況などを知ってもらうことができます。

### ◎事例報告Ⅱ：石垣 哲治（いしがき てつじ）氏

祖業は醤油生産で、大豆のSOYと創意工夫の「創意」をかけ合わせて「ソーイ」という社名にしました。

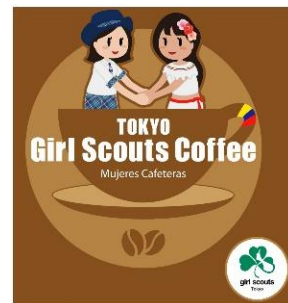
醤油は発酵食品で、味噌、日本酒、ビール、パン、ワイン、ヨーグルトなども発酵食品です。今取り組んでいるのは新しい発酵分野です。

例えば、大豆は生では食べられませんが、発酵によって味噌や醤油という美味しいものになります。味噌の製造ではゴミが出ません。ゴミを出さないということが大きな特徴です。発酵には、大豆のように生だと美味しくなく、下痢もするものを、毒を消し、さらに美味しくするという力があります。

我々のビジョンは、発酵の力で、食材を丸ごと使い切り、その時にエネルギーを無駄に使わず、ゴミを作らないというものです。

コーヒーは煮豆で食べたり煮汁を飲んだりしていましたが、17世紀ごろからドリップして飲むようになり、コーヒーが生まれました。

食品は食べられる部分とゴミとして捨てる部分になります。その境目を決めているのはおいしくない、食べにくいなどの人の心です。江戸時代マグロのトロはゴミでした。人の心（意識）が変わったのは技術革新（血抜き、冷蔵）があったからです。



東京ガールスカウト  
オリジナルコーヒー



サステナブルコーヒー



奥富氏



参考資料



参考資料



石垣氏



ゴミと思わずまず食品に戻し、そして食材にする。これを、アップサイクルとゼロウェイストを掛け合わせ、「UP 0 TECH(アップゼロテック)」と呼んでいます。

「コーヒーかす(残渣)」は「コーヒーオーブ(ORB)」と呼んでいます。ORBは、宝物、丸いもの、球体という意味で、循環していくものということです。コーヒー豆は多くの栄養素を含んでいますが、ドリップするとその90%はオーブの方に残っています。世界にはコーヒーかすのアップサイクルの事例がありますが、それらはゴミが残ったり、結局燃やしたりするという形になっています。弊社はお菓子などにして食べてしまおうと考えました。ゴミを伴わないというのがキーポイントです。

オーブを濡れたまま破碎してペースト化し、発酵させます。その後、ドリンクに、チョコレート風に、焼き菓子に、あるいは化粧品にします。コーヒーの楽しみ方に歴史的転換を起こせると考えています。

コーヒーは香りを楽しむのに対して、コーヒーオーブは二度目の楽しみで栄養が取れて楽しむものだと考えています。人は貴重なものは丁寧に扱います。このための啓蒙活動をしていくことが大事になります。

## ◎トークセッション/交流タイム



### (質問) 今後コーヒーはぜいたく品になっていきますか？

(川島) コーヒーはマネーゲームの対象になっていることなどで価格が高騰しています。それに日本はこれまで安すぎたし、円安もありコーヒーは高級品になっているのではないかと思います。最近のコーヒーの市場は両極化していて、安い方はぐんと品質が下がっています。

(石垣) ぜいたく品になっていくと思います。それだけに栄養素の沢山ある豆を捨てるのはもったいないです。コーヒーを深く広く楽しむことが出来る形を提供し、ぜいたく品度を少し下げることが出来ればと思います。

(奥富) コーヒーのことを知ることでコーヒーの格差を知り、フェアトレードコーヒーよりサステイナブルコーヒーの方が味も美味しいし、生産者への還元になることを知りました。

### (質問) コーヒー残渣はどうやって集めていますか？

(石垣) BtoBで、ドリップされたものをそのまま、その日の分を全て封印して冷蔵の形で送ってもらっています。今はコーヒー残渣はゴミですが、人の意識が変われば扱い方が変わります。扱い方が変わるように啓蒙活動をするのが今の段階です。NPOの活動ともつながっていけばいいと思います。

### (質問) 最後に、これまでの活動はどこまで社会を変えてきたと思いますか？

(川島) 20年前に比べると、コーヒー豆という原料の重要性の理解が進みましたし、産地と消費国が近づいてきたと思います。消費者の皆さんは、飲んだコーヒーが美味しくなかったら「まずい」と、美味しければ「美味しい」と、正直に味を評価してください。これが生産者のためであり、良いコーヒーをずっと作っていくために重要なことです。

(奥富) 生産地の様子などを深く理解できました。私たちはゼミなので、毎年新しいメンバーに視点で、新しい課題を見つけて取り組んでいます。

(石垣) 「ものの見方を変えると価値観は変わる」。1杯のコーヒーを前にする時、コーヒーだけを見るのではなく、1杯のコーヒーを飲むために出てきたコーヒーかすにも目を当ててみる。いただいた命を余すところなくいただくという気持ちになってやっていくことがサステイナブルであり、SDGsにつながっていきます。

聴かせて  
NPO!

## ※ちょっと気になるNPO団体を紹介し※

### 《NPO法人 健康心理教育実践センター》

#### ～健康心理学の知見で、豊かな「こころ」と「からだ」の未来を創る～

健康心理学・健康教育の学術的視点に基づき、現代社会の課題である「メンタルヘルス不調の予防」や「ライフスタイルの変容」を支援し、心理学のエビデンスを活用した「習慣形成」の手法を普及させることで、市民一人ひとりの自律的な健康づくりをサポートしています。

♪当センターで行われる「第199回市民とNPOの交流サロン」にご登壇いただきます♪

開催日時：2026年2月12日(木)18時45分～20時45分

※是非ご参加ください。

参加方法：オンライン(詳細は<https://snponet.net>)  
語り手：NPO法人健康心理教育実践センター理事長  
竹中 晃二 氏  
参加費：無料

主催・問合せ：一般社団法人NPO協働機構  
【電話】03-5206-6527  
【E-mail】hiroba@s-nponet.net  
後援：新宿区

申込みは  
こちらから



# センターからのお知らせ

## 講座

### 『ファシリテーション講座（実践編）①②』

～みるみる発言が増え、みんなが納得できる「場」づくりを学ぼう！～

【日 時】2/21(土) 13:00～17:00

【内 容】多様な人々が参加する話し合いや、スムーズな組織運営の進行を促していくための話し合い等に必要な「安全・安心な」場づくりと、「参加者の自由な対話」を生み出しながら協働を促進する方法を学びます。

【講 師】長畑 誠 氏(明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科長・教授)

【会 場】当センター 501会議室

【参加費】2,000円(資料代等)

【定 員】会場(先着順)20名 オンライン(Zoom)40名

【申込フォーム】

《オンライン参加用》

《会場参加用》



## 交流事業

### 『NPO×プロボノ×ソーシャル・インパクト』

「あなたのスキルが、誰かの未来を変える！」

～組織や立場の枠を越えた新しい社会参画のあり方～

【日 時】2月7日(土) 13:30～16:30

【内 容】社会課題への関心が高まる中、社会参画のあり方も多様化しています。よりよい社会を目指して「プロボノ」（職業上のスキルや専門知識をボランティア活動に活かしている人たちが）、NPO、企業、学生、地域コミュニティと連携・共創し、活動するための社会参画のあり方について考えます。

【会 場】当センター 501会議室

【対象者】社会課題解決のための活動やプロボノの活動に興味がある方  
ボランティアやプロボノとしての活動を実際に行っている方  
プロボノの力を必要としているNPOや企業の方。

【参加費】無料

【定 員】会場(先着順)20名 オンライン(Zoom)40名

【申込フォーム】

《オンライン参加用》

《会場参加用》



※詳細はHPにてご確認ください

★参加ご希望の方は、上記のQRコードまたは、電話、FAX、メールにて、下記お問い合わせ先へご連絡ください。

★講座・イベントは変更・延期又は中止する場合がございます。最新情報等につきましては、当センターHPをご参照ください。【URL:<https://snponet.net/>】

## 情報・お問い合わせ

TEL : 03-5386-1315

FAX : 03-5386-1318

E-mail : [hiroba@s-nponet.net](mailto:hiroba@s-nponet.net) URL : <https://snponet.net>

Facebook : <https://www.facebook.com/shinjuku.npo.center>

X (旧Twitter) : [https://twitter.com/s\\_NPOcenter](https://twitter.com/s_NPOcenter)

Instagram : [https://www.instagram.com/npo\\_kyogi/](https://www.instagram.com/npo_kyogi/)

## アクセス

〈バスでお越しになる場合〉(いずれの停留所からも徒歩で4分)

- ・各線 新宿駅 西口より関東バスで「小滝橋」下車 (乗車時間10分前後)  
西口地下より標柱番号12・14を上がった乗場から出るバス (すべて)
- ・各線 高田馬場駅 早稲田口より都バスで「小滝橋 (郵便局前)」下車  
(乗車時間5分前後) 早稲田口を出て目の前、高架下の乗場

〈最寄駅から徒歩でお越しになる場合〉

- ・東京メトロ東西線 落合駅、西武新宿線 下落合駅より徒歩12分
- ・JR山手線・東京メトロ東西線・西武新宿線 高田馬場駅、JR中央線 東中野駅・大久保駅、都営大江戸線 東中野駅・中井駅より徒歩15分

## 作成&発行

新宿区立新宿NPO協働推進センター

指定管理者：一般社団法人NPO協働機構

(〒169-0075 新宿区高田馬場4-36-12)

編集：関根 聡史 林 幸靖 月岡 英人



新宿NPO協働推進センターは、社会貢献活動団体のネットワークづくりの拠点施設です！

センターでは、社会貢献活動団体への施設の貸出しの他、相談や情報提供、講座等、さまざまな事業を実施しています。